



2008ASTCトライアスロンアジア選手権広州大会レース速報1 山本良介が優勝し、北京への切符を得る

U-23では下村幸平が2位、ジュニアでは椿浩平が2位となる

5月2日(金)、中国・広州市で、2008ASTCトライアスロンアジア選手権の第1日目、男子のレースが行われた。

このレースの優勝者は、本年8月に行われる北京オリンピックへの出場権を獲得できる。

午前9時30分スタートの男子エリートは、スイムの1周目を田山寛豪(チームテイケイ)がリード。スイム終了時には、トップをワン・ダンキン(中国)に譲ったものの、2位でバイクへと移った。

バイクでは、田山にスイム3位の山本良介(トヨタ車体)と細田雄一(ウイダー)、福井英郎(トヨタ車体)、杉本宏樹(兵庫県協会)、中国のワン、スン・リウエイ、ザン・イミンを含んだ10名が先頭集団をつくってレースをリードした。

杉本は、惜しくもバイク最終周で遅れ、他の9名がランへのトランジションへと入った。

ランでは、田山が先に飛び出すものの山本と細田がすぐに追いつき、3名で走り出す。その10m後ろをダニール・サブノフ(カザフスタン)が追いかける展開となった。

2周目には、山本が集団を抜け出したが、田山と細田は反応できなかった。変わらずに山本を追ったのはサブノフだった。しかし、その差は周回ごとに開き、3周回目で100m、最終週の4周回目で150mとなった。

山本は、このままリードを広げて、1時間50分6秒のタイムで優勝した。同時に、北京オリンピックへの出場権を得ることとなった。

2位は、サブノフが入り、3位は細田となった。田山は惜しくも4位だった。



大学が集中する町のなかにある池がスイム会場



バイクは日本勢と中国勢が支配した

JTU Official Sponsors & Official Partners



P.1/P.2

このレースで、北京オリンピックランキングで出場圏外にあった山本が優勝し、北京オリンピック出場権を獲得したことにより、日本男子は、北京オリンピック出場ランキング上位の田山とともに2枠の出場権を獲得することが有力になってきた。

そのほかの選手の日本選手の結果は、福井5位、西内洋行(西京味噌)8位、杉本13位だった。

なお、同日に行われたU-23(23歳以下)男子は、下村幸平(大阪府協会/JSS深井)が2位となり、ジュニア(20歳以下)では椿浩平(埼玉県連合/狭山ヶ丘高校)も2位に入った。

この後、6月8日(日)のITU世界選手権バンクーバー大会(カナダ)で3位以内に入れば北京オリンピック出場決定となる。最終出場選手は、北京オリンピック出場ポイントの順で、出場が決定する。各国の最大出場選手枠は3名まで。

なお、今回のレースの様子はフォトギャラリーでご覧になれます。



ランをリードする田山(左から)、山本、細田の日本3選手

山本 良介

トヨタ車体



レースの前から、優勝することしか考えていなかった。ランで田山、細田選手と一緒にになったときも、自分のペースに早く持ち込みたいと思っていた。そのため早めに仕掛けて前へ出た。サブノフがついてきているのも知っていたし、後半の追い上げが怖かった。3周目の最後で、エネルギーが切れかけたが、気力を振り絞って走った。オリンピックは、走りを充実させて挑戦する。このコースは、よく整備されていて良いコース。また、関係者の大会づくりもとてもいい。2年後のアジア大会もたのしみだ。

下村 幸平

大阪府協会/JSS深井



学生時代はあまり大きな大会に参加しなかった。自分でも突然飛び出した感じ。3月に行われたU-23の沖縄大会でアジア選手権の出場権を得た。スイム出身だが、苦手と思われがちなランが一番得意だと思っている。今日もそのランで追い上げられたので満足している。

椿 浩平

埼玉県連合/狭山ヶ丘高校



2位という結果には、全体的にみて良いと思うべきだと思う。しかし、自分自身は満足していない。昨年負けた相手にまた敗れてしまったし、スイムから思うようにいかなかった。この経験を生かして、バンクーバーの世界選手権ではよりよい位置でフィニッシュしたい。

JTU Official Sponsors & Official Partners

